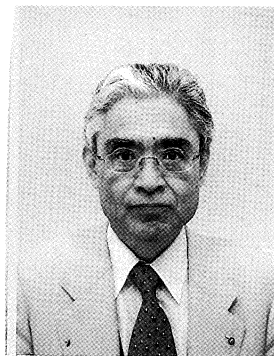


白門経友会

第二十一回定期総会を終えて

白門経友会幹事長 風間俊範



第21回白門経友会の定期総会は2011年6月4日(土)多摩キャンパスで開催された、白門経友会は経済学部の教職員・学生・学員(卒業生)の三位一体の活動を通じて、学生の資質向上、中央大学の発展と会員相互の親睦と交流を深める事を目的とした中央大学学員会支部です。その活動の主なものに毎年6月の第一土曜日に開催する事

になつている定期総会と、その後に行う記念講演です。長年、研究している専門分野についての講義だけでなく、感想や感慨を含めた本音で話していただく、他ではあり得ない興味深い内容です。今年度は、講師に渡辺俊彦教授を迎えて「中国、ナショナルリズムの事情」という演題で講義をいただきました。会員にとっても関心のあるテーマで、とても充実した時間であった。内容については、後日冊子にして配布いたしますので、楽しみにして下さい。

総会は、松丸和夫会長の挨拶後、議長に就任して議事に入つた。2010年度の活動報告書にはじまり、2011年度の活動計画、又決算、予算が満場一致で可決された。特に常任幹事の方々にはほぼ毎月1回会合を重ね、会の企画立案や主要な諸事項についての分担協力をいただいた。今後より多くの会員を増強する為に、諸先生方のゼミOB・OG会の学員や新卒業生への呼びかけと共に、この他にないユニークな白門経友会の活動に数多くの参加をいただくべく努力していきます。又、事務局に学部事務室の鈴木英之事務長の献身的な協力により諸連絡がスムーズにいつている事を付け加えさせていただきます。

このようにして、学部授業「キャリアデザイン」や「インターンシップ」への協力をはじめ、最初に述べました教職員・学生・学員との交流会合に楽しんでおりますので、多くの会員の参加を望みます。

「多摩キャンパス散策」



駿河台校舎の中庭にあった「青年像」は正門から校舎に向かうアプローチの左側に設置されています。



10月になると白門祭に向けて学生達の活動も活発になります。

講師の実体験に基づく講義に 感動しました

経済学部一年 桑水 流



味深いですし、面白くもあります。そして、そのようなお話は聞いていった分だけ自分のためにもなると思います。

自分は、将来どのような職に就きたいのかという具体的な目標はまだありません。キャリアデザインという授業を受けておいてそんなことも決まっていまいかと思うかもしれません。が代わりに、今の自分は将来に向けてどのようなことをしていけば良いのかというやるべきことはキャリアデザインという授業を受けて見つけられました。

それは、キャリアデザインの授業です。と聞いてきたように、様々な経験を持つた人の話を聞くということ。それによって見聞が広がり、同じ物事を考えるにしても様々な見方ができるようになります。そしてそれは、将来何をやりたいのかということを見つめる上で役に立ちますし、またそのやりたいことを達成する上でも役に立ちます。キャリアデザインの授業を受け終わった今私は、具体的な目標が無いから何もしないのではなく、将来具体的な目標を見つめるための、また見つけたときのための努力をしていきたいと思います。

特に、講師の方の実際の経験というのは非常に価値のあるお話だと思います。これに限っては絶対に何があっても二つと同じ話がありません。だからこそ聞いていて興

キャリアデザインを受講して

「コミュニケーションの大切さを知りました

経済学部一年 匿名

キャリアデザインの授業は、私が受講した授業の中でも特に印象深いものでした。先輩にあたる中央大学の卒業生を中心に、現在社会の様々な分野で活躍している方々に講演を行っていただき、それらの多様な経験を基にした講演は大変ためになるものが多く、教科書では得ることのできない多くの生きた知識を学ぶことができました。

そして、それらの講演の中で、コミュニケーションの重要性を強調される方が多かったことが強く印象に残っています。グローバル化が進み、他種多様な価値観が混在する現代においてコミュニケーションの重要性が高まっていることを確かに意識する機会は増えています。社会で活躍されている講演者の方々はそのことをわれわれ学生よりもはつきりと肌身で感じているのだと思います。

しかし、キャリアデザインの授業では、コミュニケーション能力が重要であると指摘するだけでなく、どのようにしたらコミュニケーション力を高めることができるかを示していただけたことが非常に有益だったと感じた。いろいろと紹介していただいた

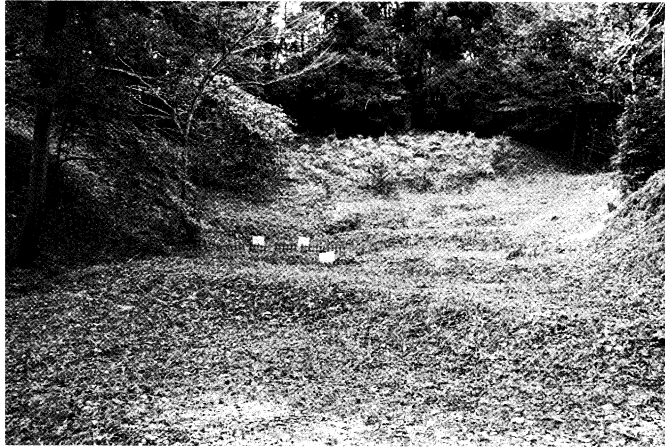
中で具体例を一つ挙げるならば、高田圭悟氏が紹介したソーシャルスタイルという自己の性格を把握する方法を挙げたい。これは思考開放度と感情開放度の二軸を用いてや自分や相手の性格によってどのように振舞うのが望ましいかなどといったことを知ることができるといいうので、他者と向き合う準備として自己を把握することに重点を置いたものだ。

また、この授業を受けたのちに、充実した大学生活というものの考え方も変わっただと思う。この授業を受ける以前は、苦労するのは入試だけで、入学はゴールであり、あとは友人もたくさん持ち、とにかく楽しく大学生活を送ることが充実した大学生活と考えていたが、自分の将来、社会に出た時のことを意識して多くの場で活躍できる人材となるために努力を続けることも充実した大学生活と言えるのではないかと感じた。

この講義で得たものを基に自分の卒業後を意識しながら活動することが確実に充実した学生生活につながり、またそのことが自分の人生を素晴らしいものにするこゝろにつながるのだと思う。

多摩キャンパスのビオトープを訪ねて！

10月初旬、多摩キャンパスの湧水エリアを散策しました。



中央大学創立125周年経済学部企画事業として黒須詩子経済学部教授が中心となり「湧水を中心とした多摩キャンパスの生態系の保全とビオトープの確立」が昨年実施されました。この事業は計3回のシンポジウムとキャンパス内にある湧水を中心としたビオトープとして保全・再生することにより生態系の復元のための整備という2部構成で実施されました。

シンポジウムは「多摩丘陵の自然保護、これまでとこれからの展望」というテーマで開催されました。

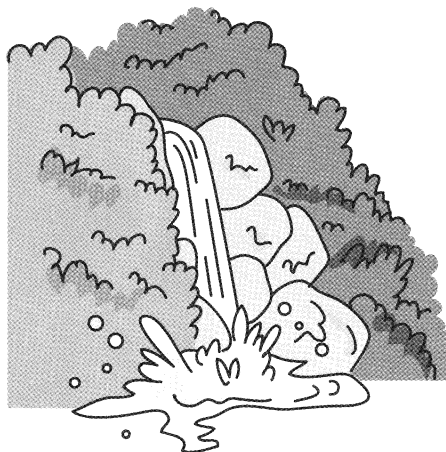
多摩丘陵の自然保護にかかわり続けた方々を講師にお招きし、多摩丘陵の自然史について講演頂き、今後の環境保全の進め方について考えました。中央大学は八王子市東中野に所在しますが、この地は以前、東中野谷津入という字(あざ)名で呼ばれておりました。

いくつかの谷戸がありそれぞれからの湧水は豊富で谷戸の奥まで水田があり、小動物・小魚や昆虫達にとっても住みやすい環境が整っております。多摩キャンパスの硬式野球場の奥に湧水があり、水量も多く虫も生息しています。

このエリアは校地として開発された時も手が入れられず里山の景観が留められておりました。今回の事業ではあまり大きな工事はせず、更に動植物の保全にとって良い方法がとられました。遊歩道も整備され余分な所へ足を踏み入れずに済む保全と観察がしやすい状況になっております。ここに来ると周囲は自然音で、せせらぎの音、木々の葉が風にそよぐ音が安らぎの時をくれます。

この湧水はキャンパスを出ると、谷津入川から大栗側を経て多摩川に合流して東京湾へ注いでおります。

四季折々表情を変える多摩キャンパスの自然を訪ねてお出かけ下さい。

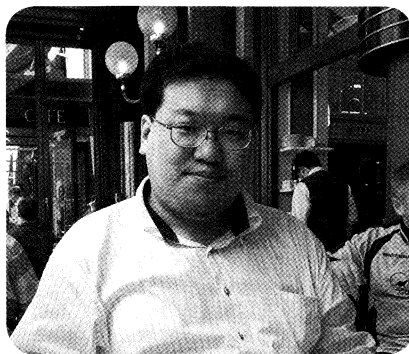


キャンパスの付近には、水田が耕作されており、大学からの湧水も一役果たしております。

え、あの先生が「シリーズ」

経済学部に戻って

経済学部 准教授 丸山 佳久



広島に赴任し九十年。このたび母校に戻ってくることにになりました。白亜の建物は思い出のままでしたが、一緒に学んだ友人たちの姿はなく、歳月の流れを感じました。

はじめまして。丸山佳久と申します。母校・中央大学経済学部今年二〇一一年四月に戻って参りました。身長は一八〇cm、三桁の体重のある巨漢です。自己紹介をすると、名字の丸山が体を表わしているためか、みな

さま私のことを記憶に残していただけるようです。

東京に戻ってきたの最初の感想は、「東京は人が多すぎる」というものでした。降り立った東京駅では人にぶつからずには歩けないし、中央線に乗り換えて八王子に向かうと、どこまでいっても市街地が途切れない。すっかり「おのぼりさん」になったわけですが、立川でモノレールに乗り換え、多摩川を過ぎたあたりから草のみどりが増え、多摩動物公園を越え、中央大学の白亜の建物が見えてきて、ようやく私は懐かしい記憶を思い出しました。

私が中央大学経済学部に入学したのは一九九一年四月。もうバブルは崩壊しはじめています。入学案内には、まだまだ景気のいい言葉が並んでいて、その覚えています。それでも景気の先行きに対する不安があ

り、資格でも取っておこうかと、入学と同時に経理研究所で公認会計士の試験勉強をはじめました。学部ではゼミの洗礼を受け、もちろんサークルにも所属し、とても慌ただしく充実した大学生活でした。

会計士の勉強をはじめて会計に興味を持ち、三年次には故原田富士雄先生の社会会計の専門ゼミに入りました。原田ゼミで取り上げたテーマが「環境会計」です。環境会計は現在まで続く私の研究テーマであり、私が中央大学で担当している講義科目の名称です。専門ゼミで出会った環境会計を、今度は私が先輩たちに教えることになりました。

そうこうしているうちに完全にバブルがはじけ、就職氷河期に突入していました。私は会計士試験に何とか合格できましたが、今度はそうすると、もう少し経済や会計の勉強を続けたいと考えるようになり、進路に悩むようになりました。当初の予定通り監査法人に入ろうか、それとも少し寄り道して大学院に進学しようか。原田先生に相

談をしたところ、「大学院で会計の勉強をしたいのなら、ぜひとも中央大学大学院経済研究科に進学をなささい、自分が面倒を見てあげる」とお誘いをいただき、進学を決めました。

博士前期課程が終わる頃には、公認会計士の世界よりも研究者になりたいという気持ちが強くなり、そのまま私は博士後期課程に進学しました。原田先生のご年齢の関係で、後期課程では指導教授がかわり、小口好昭先生にお世話になりました。

後期課程は4年次でいったん退学し広島で奉職することになるのですが、小口先生には博士学位の取得まで十二年間にわたりご指導をいただきました。

経友会という経済学部のOB会の機関誌に私の略歴を紹介する形になり恐縮ですが、私がモノになったのは、中央大学経済学部あつてこそというのは、よくご理解いただけたかと思えます。諸先生方・諸先輩方からいただいたご恩を、今度は私が後輩たちに返していくチャンスを与えていただきました。

経済学部に着任して、はや半

年。学生としていたのと教員としていたのではまったく勝手が違い、戸惑うことばかりですが、研究に教育にがんばっております。伝統と実績がある中央大学経済学部の一端を担うということ、身が引き締まる思いです。まだまだ若輩の身ではありませんが、白門経友会の諸先輩方にはどうかご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

暑さ寒さも彼岸までといいますがここ数年いつまでも暑く、それでいて一気に寒くなり長い夏と短い秋、間もなく冬になってしまふようですが、東日本大震災で被害を受けた方々にとっては厳しい季節となりますね。少しでも早い復興をお祈りし応援したいと思います。

2011年 11月10日 第46号

発行 白門経友会常任幹事会

発行人 白門経友会編集委員長

鈴木 秀 男

〒192-0355 八王子市堀之内817番地

鈴木 様 方

TEL 042 (676) 8266 (代)

FAX 042 (674) 8668

E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp

郵便振込口座 00180-7-753686